

アンカーボッキー
耐久性テスト報告

2016. 5. 29

小 俣

アンカーボッキーの耐久性テストが一区切りしたので、その結果を下記する。

『結果』 「先端コマ」 2個による各1, 000本のアンカーボルトの剪断を行った結果、
多少の先端摩耗は認められるが、まだ～ 剪断可能な状態 であり、
「耐久性は充分ある」と判断する。(1, 000本も持てば という判断)

1. 耐久性テスト方法

1) M12のアンカーボルト (ネジ部長さは 20mm) の剪断を行いテストする。

アンカーボルトの GND からの突出量は

・標準を20mmとし、その他15mm、12mm、26mmも対象とする。

(26mmは、ネジが切っていない部分も一部突き出ている状態)

2) 使用する「先端コマ」は、在庫の 台湾製2個 を使用する。

(12-1, 12-2とナンバリングし、この番号で経過管理する)

3) 剪断は出来るだけ多くの人に実施していただく。

4) その他、気づいた点 をメモする。

2. 剪断経過 (先端コマ毎 各1, 000本)

12-1で	20mm	15mm	26mm	12mm	20mm
	500本	100本	100本	100本	200本
12-2で	20mm	SUS20mm	20mm		
	500本	100本	400本		

3. 剪断に協力していただいた方

天野さん、川上さん、穂刈さん、渡辺(茂)さん、宮下さん、加藤さん、野沢さん、
佐藤さん、鳥屋部さん、小林(隆)さん、依田(せ)さん、林さん 感謝します。

4. メモ

- 1) 剪断部が2～3mm、GNDより突き出ている。→ハンマーで叩く
アンカーの下穴がアンカーより深くないと、叩いてもへこまない。
- 2) 柄を倒す角度は30°位が良いかも。(4～5往復で切り離せる)
- 3) SUS材は粘っこい性質のためか、8～10往復掛かる。(時間が1.5倍位掛かる)
(柄を押し倒す力は、スチールと変わらない)
- 4) 柄を30°位倒すとポキッと音がして、M12のネジ部が剪断される。
- 5) GNDに残った突出量は、柄を倒すスピードを変えても変わらない。
- 6) 剪断したカスが先端コマ内部に残る場合があるが、GNDをトンと叩くと落ちる。
- 7) 柄を倒し過ぎて(例えば50°)作業を行うと、カスが詰まりやすい。
(アンカーや芯棒が抜き出てきて、カスの剪断部が変形する)
- 8) GNDに多少の先端コマによる凹み痕がつく。
- 9) 剪断された直後のカスは、50°位の高温になっている。
- 10) 柄がもっと長いほうがやりやすい という人もいた。(1200mm位)
- 11) 柄がもっと短いほうが良い という人もいた。(500mm位)